エリアSANTA連携強化

北海道四季劇場ほか エリア内5箇所が協力

どうしん夢プロジェクト

昨年指定されたサンタの最重要捜索地域「エリアSANTA」。今年は、さらに捜索チームの連携強化を図るため、サンタ捜索チームの主要部署が北海道四季劇場をはじめとした計4箇所に移転し、常駐することが明らかになった。盤石の体制で臨む同チームの姿勢から「今年こそ発見を」という決意が感じられる。

捜索網がより強固に

「エリアSANTAが捜索チームの中枢となる」28日、捜索チームによる記者発表会見場で、記者たちからどよめきの声が漏れた。

例年、サンタの目撃情報が多数寄せられている大通公園から北海道四季劇場、サッポロファクトリーまでの一帯。目撃スポットとして、サンタ愛好家の間では〝聖地〟として知られており、昨年は捜索強化を図るため、該当エリアを「エリアSANTA」と命名。捜索の最重要エリアと位置付け、捜索網を築いてきた。

今年はその活動をさらに推し進めるべく、捜索チームはこの一年をかけて入念に準備を進めてきた。捜索チームの発表によると、現在道新内に設置されている同チームの主要部署を「エリアSANTA」内の4箇所に移しメンバーを常駐させるという。対象となる部署は、「国際文化課」「物資課・食料課」「情報収集課」「通信企画課・通信管理課」の四つ。それぞれの移転先は次の通り。国内外のサンタ情報を収集している「国際文化課」は、多彩な国際文化に精通した北海道四季劇場。捜査員への物資手配・管理を行う「物資課・食料課」はサッポロファクトリーへ。札幌市内のサンタ情報を集める「情報収集課」は札幌市役所、「通信企画課・通信管理課」はさっぽろテレビ塔。なお、同エリア内の北海道新聞社には捜索本部の中枢となる「札幌第一捜索課」が設置され移転した四部署と連携する。

この発表直後、道新本社からの引っ越しが慌ただしく始まった。ダンボール箱を抱えた捜査員からは、「『やり過ぎなのでは』という声があったのも事実。ただ、それ以上にサンタを発見したいという気持ちの方が強かった」という声が聞かれた。

ダンボール箱を運び入れる国際文化課のメンバーたち＝北海道四季劇場

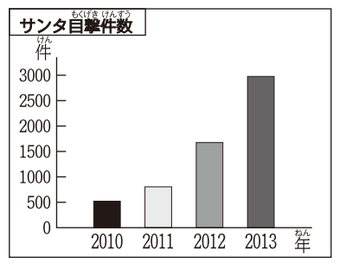
この施策が意味することは何か。期待できるのは、部署内における密度の濃いコミュニケーションだ。まさに「エリアSANTA」が〝サンタ包囲網〟として機能し、サンタ発見の確率も上がることだろう。また、目撃情報が多数ある場所にサンタ捜索のプロが常駐することによって、何か異変が発生した際、素早く行動を起こすことも可能となる。

重要書類や捜索グッズが入ったアタッシュケース

「連携を強化したことでエリア全体の捜索力が向上した。今年こそサンタを発見したい」。冷静沈着な捜索チームの一員が記者会見で発した熱く力強い一言に、期待は高まる一方だ。

増加する目撃件数

「エリアSANTA」一帯では、具体的にどれほどのサンタ目撃情報があるのだろうか。その件数をグラフ化すると、昨年は「エリアSANTA」に指定された効果もあってか、一昨年の1675件から2976件へと目撃件数が急増。比較のできる数字は公式発表されていないものの、他地域よりも圧倒的に高い数字を示していることが推測される。また昨年の聖夜、北海道四季劇場のそばで光る物体が目撃され、直後に白いヒゲのようなものが路上で発見されていたことが捜索チームへの取材で判明した。同チームではサンタのヒゲの可能性もあるということで現在鑑定を行っており、その結果が待たれている。ちなみに、その〝ヒゲ〟を拾ったのは市内の小学生。両親と北海道四季劇場付近を歩いていたところ偶然発見。その雲のような触感に驚いたという。



エリアSANTA
2013年に指定されたサンタ捜索の最重要エリア。札幌市の大通公園から北海道四季劇場、サッポロファクトリーまでの一帯を指す。過去4年間におけるサンタ目撃情報が極めて多い。

「サンタの姿見た」

劇団四季「キャッツ」出演俳優が証言

にこやかな表情でサンタ目撃事件について語る加藤さん。ミュージカル「キャッツ」ではワイルドでプレーボーイな猫「ラム・タム・タガー」を演じる＝11月1日、サッポロファクトリー

今年初のサンタ目撃情報が捜索チームに寄せられた。情報提供は加藤迪（すすむ）さん。釧路市出身で北海道四季劇場で来年1月から上演されるミュージカル「キャッツ」に出演予定。

加藤さんによると、11月1日、サッポロファクトリーにて行われたジャンボツリーの点灯式でサンタらしき姿を目撃したという。この日、加藤さんは自身が演じる劇中のキャラクター「ラム・タム・タガー」としてステージに登壇し、ツリーのライトを点灯。その瞬間、アトリウムの窓の向こうにものすごい速さで上空を駆け抜ける光る影を目撃。その姿はサンタとトナカイのように見えたという。当日、捜索でファクトリーにいた捜索チームが目撃現場へ急行するも、その後サンタの姿を捉えることはできなかった。「ここはエリアSANTAに指定されている場所ですし、美しいツリーが目印になったのかもしれません。来年には『キャッツ』の札幌上演もあり、サンタさんがそのお祝いに来てくれたとしたらうれしいです」と話す加藤さん。同様の目撃証言が多数寄せられていることから、捜索チームでは詳しく調べを進める方針だ。

個性的な猫が多く登場し、子どもから大人まで人気を集めるミュージカル「キャッツ」。客席と舞台が一体化した構造により、迫力あるステージを楽しむことができる。北海道四季劇場では来年1月18日から開幕＝撮影：荒井健

加藤さんが出演する「キャッツ」は、札幌では17年ぶり3度目の公演。都会のゴミ捨て場を舞台にたくましく生きる個性的な猫たちの姿を描いている。その姿はサンタ捜索に励む捜査員の姿と重なる。

最後に加藤さんは「劇中ではマジックの腕が抜群な猫の力を借り、姿を消した長老猫を探すシーンがあります。このマジック猫に頼めばサンタも見つかるかも」と話す。次にサンタを目撃できるのは北海道四季劇場かもしれない。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

捜索チーム

訓練に一般市民ら参加

「エリアSANTA」内で痕跡探索

聖夜へ向けて本格始動した捜索チームは11月下旬、連携を強化すると発表した「エリアSANTA」内での捜索訓練をマスコミに公開。極秘に募集した一般市民捜査員の存在も明かし、選抜された3人の市民が訓練に加わっていたことも明らかになった。参加した市民の1人は「サンタの存在を子どものころから信じていた。今回捜査員に選ばれてうれしい」と興奮を隠せない。

訓練には総勢20人が参加し、寒空の下、大通公園を中心に聞き込み調査を実施。昨年の目撃情報を含めた細かな証言に耳を傾け、懸命に手掛かりを探した。また、同エリアで過去にサンタの痕跡が多数発見されていることを受け、痕跡探索も同時に行われた。

捜索チームは、一般市民捜査員の加入目的を「フラットな目線を取り入れたかった」とし、期待を寄せた。新しい取り組みに挑戦する今年の捜索チームから目が離せない。

捜索チーム注目 サッポロファクトリー

サッポロファクトリーは過去にもサンタの目撃情報が寄せられ、捜索チームが一目置くサンタ目撃多発地点。高さ15メートルもの巨大なツリーは人々を魅了し、同じく「エリアSANTA」内にある北海道四季劇場からも徒歩圏内。恋人・家族たちの人気スポットという側面から、同館では「ハピネスショット」というテーマを掲げ、館内に設置された専用カメラで撮影すると、その写真が大型ビジョンやフェイスブックなどで拡散される取り組みを行う。館内をクリスマス色に染めながら来場者の幸せを彩る同館の催しは今月6日から。

企画制作／北海道新聞社広告局
この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月上旬朝刊予定

サンタ 卓上 31年前のクリスマス

驚異的なロングラン公演で知られる劇団四季の代表的なミュージカル「キャッツ」。その初演は1983年、実に31年前のことだ。これまで世界36の国や地域で上演され、演劇界の常識を変えるほどの一大センセーショナルが巻き起こったその年、クリスマスとつながりのある名作が誕生したことをご存じだろうか。その一つが、山下達郎の代表曲「クリスマス・イブ」だ。30年以上たった今でも、クリスマスシーズンになると、このメロディーが街中に流れ出す。そんなクリスマスソングの大定番も、83年の発表作。どうやら、この「1983年」という年には、時を超えて長く愛される作品を生み出す〝何か〟があるのかもしれない。

なお、来年17年ぶりに札幌に再上陸を果たす「キャッツ」は、時代性を反映し、舞台となる都会のゴミ捨て場には北海道ならではの「ご当地ゴミ」が紛れている点も見どころ。そのオブジェが何かは劇場でのお楽しみだ。かつて札幌で「キャッツ」を観劇した人も、きっと新たな発見があるはず。見るたびに違う感動が生まれる「キャッツ」を体感しに、劇場へ足を運んでみてはいかがだろうか。

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。